

## イノベーション・マネジメント研究センター

## 【2024年度大学評価総評】

学術研究活動について、一部目標に達していない成果があるものの（ワーキングペーパー8本/目標10本）、競争的資金の申請・獲得、研究成果の学術誌への掲載など全体的な成果は研究活動が活発であることを示しており高く評価できる。研究成果の社会還元活動に継続的に取り組んでいることも高く評価できる。これらの成果は当該研究センターの理念を体現する証左として機能しており、今後も維持・継続できることが望まれる。さらに研究所助成金を活用して英文ワーキングペーパーに対する英文校閲料の補助を行うことは評価に値する目標設定である。それがゆえに、研究所助成金から補助に供する具体的な金額規模や、研究成果の英語による発信に対する動機づけや意欲を所員間でどのように共有して実践するかなどについて、明確にすることが望ましい。資料の収集・保全・活用に関する取り組みは一貫しており評価に値する。今後も維持・継続することを期待したい。

## 大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。
-------------------------------------	---------------------------------------

## 【2024年度自己点検・評価結果】

## I 現状分析

## 基準1 理念・目的

- 1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究所（センター）の理念・目的を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究所（センター）の理念・目的を規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<p>理念  <a href="http://riim.ws.hosei.ac.jp/outline/philosophy.html">http://riim.ws.hosei.ac.jp/outline/philosophy.html</a></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>顧客志向 すなわち、イノベーションに関する研究を進める研究者および実務家へのサービス提供と社会還元を目標とする。</li> <li>デジタル化対応 産業情報センターの時代から収集した紙ベースの情報を、デジタル化した形で配信することを目標とする。</li> <li>ネットワーク・ハブ 国際シンポジウムなどの開催により、本センターを情報の結節点（ハブ）とする。</li> <li>産業官連帯 幅広いコンソーシアムの形成による産業界・官界との連携。</li> <li>研究の生産性向上 すぐれた研究者を集め、その研究の側面支援を行う。</li> <li>人間的連携 フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションを都心立地を最大限に活かして追求する。</li> </ol> <p>目的（研究の必然性）  <a href="http://riim.ws.hosei.ac.jp/outline/inevitability.html">http://riim.ws.hosei.ac.jp/outline/inevitability.html</a>  イノベーションの歴史、政策、統計、理論の探求は、社会経済発展のエンジンのメカニズムと持続性を理解する上で必須の研究領域である。経済学、社会学、心理学、工学を含む広範な経営学的英知を結集させることによって新たな研究テーマへの創造的な解を模索することが期待される。</p>	

## 基準2 内部質保証

- 2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質

保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究所（センター）において、研究所長（センター長）及び運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究所（センター）において、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学イノベーション・マネジメント研究センター規程（規定第 394 号） 自己点検評価結果は運営委員会に上程し、研究活動及び運営に活かしている。また、2023 度より質保証委員を委嘱し質保証委員会を実施している。	

### 基準 3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

### 基準 4 教育・学習

部局による自己点検・評価は実施しない

### 基準 5 学生の受け入れ

部局による自己点検・評価は実施しない

### 基準 6 教員・教員組織

部局による自己点検・評価は実施しない

### 基準 7 学生支援

部局による自己点検・評価は実施しない

### 基準 8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
研究開発センターを通じて、コンプライアンス研修を受講して頂いている。また、学術雑誌投稿論文については、剽窃ソフトを利用し事前に盗用・剽窃をチェックしている。	

### 基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関・地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
学外機関と連携しシンポジウム・受託研究等を実施している。2023 年度については以下を行った。 <a href="https://riim.ws.hosei.ac.jp/research/symposium-2.html">https://riim.ws.hosei.ac.jp/research/symposium-2.html</a> ①企業にご協力を頂き、連続プログラムを開催（2023 年 4 月～6 月「アントレ・チャレンジ in HOSEI」） ②日本マーケティング学会ユーザー・イノベーション研究会、USER INNOVATION LAB. にご後援頂き、シンポジウムを開催（2024 年 3 月 12 日「ユーザーと拓く新しいイノベーションのカタチ —ユーザー・イノベーションの活用法とその成果—」） ③千代田区キャンパスコンソとして公開講座を開催（2023 年 10 月 21 日、11 月 18 日「企業価値を生み出す信頼の循環」） ④企業からの受託研究の実施	

**基準 10 大学運営**

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

**II 改善・向上の取り組み**

**1 2023 年度 大学評価委員会の評価結果への対応**

<p><b>【2023 年度大学評価結果総評】（参考）</b></p> <p>研究活動については、公募による 19 件の研究プロジェクトに対して研究支援が行われており、研究成果は、ワーキングペーパーが当初予定していた 10 本に届かず 7 本にとどまったものの、学術雑誌、叢書で設定した達成指標は超えていることから概ね目標を達成できたと評価できる。また、科研費申請率や共同研究の実施についても目標を上回っており、活発な研究活動が推進されているものと高く評価できる。シンポジウム・講演会の開催も活発に行われており、開催方法として、できる限り対面を取り入れるとともに You Tube Live 配信によるハイフレックスでの対応を行ったことは、参加機会を上げた点で効果的であったといえる。参加人数の増加に向けて、さらなる広報活動を期待したい。研究成果に対する社会的評価として、学術雑誌への叢書の書評が外部研究者により紹介された点、および学術雑誌の高いアクセス数・引用数は評価できる。運営委員会については、定期的実施されているとのことであるが、委員会において研究活動や社会貢献などの諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みについてさらに検討を進められることを期待する。外部からの組織評価については、2023 年度から質保証委員会を委嘱することとされており、改善に向けて一層の取り組みが期待される。</p>
<p><b>【2023 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</b></p> <p>当センターの活動について、十分に評価して頂いている。ご指摘頂いた通り、研究活動や社会貢献などの諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みについてさらに検討を進めたい。2023 年度から開始した質保証委員の委嘱及び質保証委員会についても引き続き実施し、2024 年度も適切で活発な研究活動が行われるよう運営していく。</p>

**2 各基準の改善・向上**

**基準 6 教員・教員組織**

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①研究所（センター）内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>1. 研究プロジェクトを公募し研究のサポートを行うとともに、所員の研究成果を学術雑誌、研究叢書、及びワーキングペーパーの形で積極的に発信している。</p> <p>(1) 研究プロジェクト</p> <p>①情報ネットワーク利用とインタラクション（橋爪絢子）</p> <p>②起業家教育プログラムにおける心身メカニズムの研究（田路則子）</p> <p>③荷姿設定の最適化に関する研究（李瑞雪）</p> <p>④企業の合併・買収に伴うマネジメントに関する研究（福田淳児）</p>		

- ⑤金融技術とファイナンス（山崎輝）
- ⑥クロスバージェント・チーム研究会（荒井弘和）
- ⑦クラウドソーシング研究会（西川英彦）
- ⑧企業家史研究会（長谷川直哉）
- ⑨高頻度注文データを用いた市場クオリティの分析（高橋慎）
- ⑩消費者視点のマーケティング研究会（新倉貴士）
- ⑪プラットフォーム企業のCSR活動に関する研究会（近能善範）
- ⑫グローバル・イノベーションにおけるナレッジ・マネジメント・サイクル（多田和美）
- ⑬日本における新たな鉄道経営史の構築（二階堂行宣）
- ⑭産業クラスターの知的高度化とグローバリゼーション（洞口治夫）
- ⑮テリトリー研究会（木村純子）
- ⑯ホワイトカラーの仕事と報酬の研究（佐野嘉秀）
- ⑰日本企業における「新たな国際化」のマネジメントに関する研究（丹下英明）
- ⑱上場企業の法定開示情報の分析（中野貴之）
- ⑲イノベーションを生み出すエコシステムの研究（井上祐樹）
- ⑳在日韓国・朝鮮人のエスニックビジネスの成長—コリアンタウン及び金属リサイクル業を事例に（韓載香）
- ㉑ファン・ウェルビーイングの多次元因子構造：プロスポーツにおける検証（吉田政幸）

(2) 学術雑誌

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/riim/list/-char/ja>

『イノベーション・マネジメント No. 21』

※雑誌発行及びJ-stageへ掲載

(3) 研究叢書

①No. 26 『南イタリアのテリトリー：農業が社会を変える』木村純子 編著

(4) ワーキングペーパー

[https://riim.ws.hosei.ac.jp/research/working\\_paper.html](https://riim.ws.hosei.ac.jp/research/working_paper.html)

- ①No. 253 地理的表示とテリトリーがない世界—米国のアルチザンチーズの事例—
- ②No. 254 Simultaneous Optimization of Production and Transportation Networks Considering Railway Fare Fluctuations: Insights from International Rail Corridors
- ③No. 255 Subjective Probability Distributions of Nonlinear Payoffs: Recovering Option Payoff and Agent's Utility Distributions
- ④No. 256 テリトリー・マネジメントによる内発的発展—中山間地の地理的表示(GI)生産地の事例—
- ⑤No. 257 1960年代の総合スーパーの店舗開発とショッピングセンター—SSDDS、擬似百貨店、テナント化—
- ⑥No. 258 イタリア産オリーブオイルのブランド化プロセス
- ⑦No. 259 テリトリーに根ざした農業が創る豊かな社会
- ⑧No. 260 Intraregional Cultural Diversity and Foreign Subsidiary Staffing

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

<p>9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに組み込んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A（概ね従来通りである又は特に問題ない）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>1. シンポジウム、セミナー等を開催することを通じて最新の研究成果を社会に還元している。 <a href="https://riim.ws.hosei.ac.jp/research/symposium-2.html">https://riim.ws.hosei.ac.jp/research/symposium-2.html</a> ①連続プログラム（全6回）「アントレ・チャレンジ in HOSEI」</p>		

<p>2023年4月27日、5月18日、6月1日、6月15日、6月29日、7月13日 対面(大内山校舎4階Y406)</p> <p>②公開講座「企業価値を生み出す信頼の循環」 2023年10月21日、11月18日 YouTube Live</p> <p>③講演会「ウォールストリートから香港へー中国コンセプト株の二重上場の価値ー」 2023年12月4日 対面(市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー25階 研究所会議室5)、YouTube Live</p> <p>④シンポジウム「進化するブランドー理論と事例からブランドの未来を構想するー」 2023年12月9日 対面(市ヶ谷キャンパス富士見ゲート4階 G402教室)、YouTube Live</p> <p>⑤シンポジウム「ユーザーと拓く新しいイノベーションのカタチーユーザー・イノベーションの活用とその成果ー」 2024年3月12日 対面(市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー26階 スカイホール)、YouTube Live</p> <p>⑥シンポジウム「南イタリアの食とテリトリー：農業が社会を変える」 2024年3月27日 対面(市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー26階 スカイホール)、YouTube Live</p> <p>2. 継続的な資料収集を通じてライブラリーの充実を図ると共に、研究者や学生への資料提供を行うことで、様々な産業の研究の促進、人材の育成に貢献している。</p>
---

### III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	研究活動	
中期目標	研究プロジェクトを公募し、研究のサポートを行うとともに、所員の研究成果を学術雑誌、研究叢書、およびワーキングペーパーの形で積極的に発信する。さらに、特色あるデポジット・ライブラリーを構築し、他に類のない体系的な図書・資料をコレクション方式により重点収集、整理、公開利用を行うと共に、収集した図書・資料の活用を通じて調査・研究の向上に寄与する。	
年度目標	研究成果物の質と量の向上をはかる。所員に広く申請を促し、進捗管理を行う。	
達成指標	叢書2冊の発刊、学術雑誌に掲載する論文数10本(研究ノートや寄稿等も含む)、ワーキングペーパー10本を目指す。	
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	叢書1冊を発刊(申請が1件だった)、学術雑誌に掲載する論文数16本(研究ノートや寄稿等も含む)、ワーキングペーパー8本を発刊した。ワーキングペーパーは目標の10本に届かなかったが、英文での寄稿や、複数の所員による共著も含まれ、質的評価ができる。
	改善策	ワーキングペーパーについて客員研究員を含め広く申請を促す。また、英文ワーキングペーパーに対する英文校閲料の補助を研究所助成金を活用して行う。
評価基準	研究活動	
中期目標	研究活動をより充実させるために、外部資金の獲得に取り組む。	
年度目標	科研費への申請を所員に要請する。 受託研究、共同研究他外部資金の獲得に取り組む。	
達成指標	所員の科研費申請率7割、受託研究又は共同研究の実施1件を目指す。	
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2023年度科研費応募(継続含む)は、専任・兼任所員47名中41名で8割を超えた。また、受託研究1件(300万円)を実施中。
	改善策	ー
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	継続的な資料収集を通じて、ライブラリーの充実を図ると共に、研究者また学生への	

	資料提供を行うことで、様々な産業の研究の促進、また人材の育成に貢献する。	
年度目標	継続的な資料収集と、これらの貴重資料の適切な保管、長期的な維持を目指した取組を行う。	
達成指標	特に貴重資料を中心に資料収集を行い、配置の際には除菌を施すこととする。また資料を保管している書庫の環境保全・カビ発生防止に努める。	
年度 末 報 告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2023年度目録登録数 2,745 冊。寄贈及び購入により資料収集を行い、除菌を施した上で登録を行った。 また、書庫内環境については、今年度も書庫内清掃、資料除塵を行い、長期的に維持できるように保全に努めた。
	改善策	－
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	シンポジウム、公開講座等を開催することを通じて最新の研究成果を社会に還元する。	
年度目標	継続的な研究活動の推進につながるシンポジウム、シリーズ講演の実行や、海外の研究機関との関係づくりに尽力する。	
達成指標	シンポジウム又は講演会 5 回を目標とする。感染症等に対する行動方針に基づきながら対面開催併用を検討する。	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	シンポジウム・講演会を 5 回と公開講座を 1 回（2 日間）開催した。シンポジウム・講演会のうち 1 件はワークショップ形式のため対面開催した。他 4 件は対面とオンラインとの併用開催とした。公開講座はオンライン開催とした。オンライン開催したものはいずれもイノマネ YouTube チャンネルで録画を公開しているので、今後も多くの方にご視聴頂けるものと考えている。 なお、3 月 27 日の国際シンポジウムでは、イタリアより 3 名の講演を賜り（2 名は来日、1 名は録画配信）計 7 名の講師にて国際的な研究活動と研究成果の発信が出来た。
	改善策	－
【重点目標】 研究活動の推進と、研究成果の産業発展・社会貢献		
【目標を達成するための施策等】 学内外で研究交流が活発に行われるよう、研究会やシンポジウムを実施する。また、適切な研究活動が行われるよう運営する。		
【年度目標達成状況総括】 2023 年度イノベーション・マネジメント研究センターとしては目標をほぼ達成し、活発な研究活動と研究成果の発信ができたと考える。特に、シンポジウムでは、好評を頂いているオンラインと対面のハイフレックス型の実施、録画配信を継続して行い、多くの方に研究成果を発表することが出来た。また、ライブラリーについても、昨年度の 2 倍近い資料を登録し、情報収集の基点として貢献出来た。今後も適切で活発な研究活動が行われるよう運営したい。		

## IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	研究活動
中期目標	研究プロジェクトを公募し、研究のサポートを行うとともに、所員の研究成果を学術雑誌、研究叢書、およびワーキングペーパーの形で積極的に発信する。さらに、特色あるデポジット・ライブラリーを構築し、他に類のない体系的な図書・資料をコレクション方式により重点収集、整理、公開利用を行うと共に、収集した図書・資料の活用を通じて調査・研究の向上に寄与する。
年度目標	研究成果物の質と量の向上をはかる。所員に広く申請を促し、進捗管理を行う。 ワーキングペーパーについて、客員研究員を含め広く申請を促す。また、英文ワーキング

	ペーパーに対する英文校閲料の補助を研究所助成金を活用して行う。
達成指標	叢書 2 冊の発刊, 学術雑誌に掲載する論文数 10 本 (研究ノートや寄稿等も含む), ワーキングペーパー 10 本を目指す。
評価基準	研究活動
中期目標	研究活動をより充実させるために, 外部資金の獲得に取り組む。
年度目標	科研費への申請を所員に要請する。 受託研究, 共同研究他外部資金の獲得に取り組む。
達成指標	所員の科研費申請率 7 割, 受託研究又は共同研究の実施 1 件を目指す。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	継続的な資料収集を通じて, ライブラリーの充実を図ると共に, 研究者また学生への資料提供を行うことで, 様々な産業の研究の促進, また人材の育成に貢献する。
年度目標	継続的な資料収集と, これらの貴重資料の適切な保管, 長期的な維持を目指した取組を行う。
達成指標	特に貴重資料を中心に資料収集を行い, 配置の際には除菌を施すこととする。また資料を保管している書庫の環境保全・カビ発生防止に努める。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	シンポジウム, 公開講座等を開催することを通じて最新の研究成果を社会に還元する。
年度目標	継続的な研究活動の推進につながるシンポジウム, シリーズ講演の実行や, 海外の研究機関との関係づくりに尽力する。
達成指標	シンポジウム又は講演会 5 回を目標とする。
<p><b>【重点目標】</b> 研究活動の推進と, 研究成果の産業発展・社会貢献</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b> 学内外で研究交流が活発に行われるよう, 研究会やシンポジウムを実施する。また, ライブラリーの充実を図り研究者及び社会に貢献する。</p>	